

EKK GROUP CSR REPORT 2014

EKKグループ CSR報告書 2014 WEB版



大きな地球を守る、確かな技術

EKKグループが世界に誇る、シール精密技術。そこから生まれるさまざまな製品は、エンジンやプラント、産業機器等の安定運転を支えるだけでなく、機器内部からの油、溶剤、冷媒等の漏れを防ぎ、地球環境の汚染防止に大きく貢献しています。

EKKグループのドライガスシールは遠心コンプレッサ内部からのガス漏れを防ぎ、環境汚染防止に貢献しています。

空気・ガスなどを遠心力によって圧縮する遠心コンプレッサは、石油精製や石油化学プラントのガス輸送、天然ガスの冷却液化、肥料等のアンモニア合成など、産業界のさまざまな分野で使われており、現代社会にとってなくてはならない製品と言えます。EKKグループのドライガスシールは、この遠心コンプレッサの回転軸に装着されて安定運転を支えるとともに、機器内部からのガス*漏れを防ぎ、環境汚染防止に貢献しています。遠心コンプレッサの内部は、高温・高圧のガスであり、回転軸は高速で運転されます。このためドライガスシールは、極めて負荷の高い、過酷な状態で使われるシール部品と言えます。

* 硫化水素、アンモニア、エチレン、水素、メタン、プロパンなどの毒性もしくは可燃性ガス



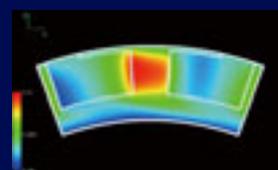
ドライガスシールEKK-NF9タイプ

精密加工された動圧溝が、密封性能の決め手です。

ドライガスシールの生命線である「しゅう動面」には、EKKグループが独自に開発した精密な動圧溝が加工されています。この動圧溝が、高速、高圧、高温で回転する遠心コンプレッサの運転条件に対応し、安定した密封性能を生み出しているのです。EKKグループでは研究開発をさらに推し進め、年々過酷化が進むコンプレッサの運転条件に適合したドライガスシールを提供し続けることで、お客さまのニーズに応えていきます。



ドライガスシールMDGSタイプ



コンプレッサ回転時における、ドライガスシールEKK-NF9タイプのしゅう動面・圧力分布



2 EKKグループのCSRビジョン 大きな地球を守る、確かな技術

EKKグループの製品は、機器の安定運転を支えるだけでなく、機器内部の油、溶剤、冷媒等の漏れを防ぎ、地球環境の汚染防止に大きく貢献しています。



4 トップメッセージ

「より良い会社」を常に追求しながら、「より良い社会」の実現に貢献していきます。



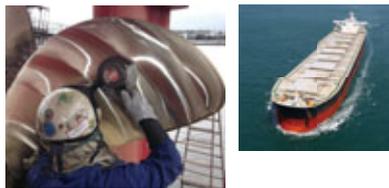
6 くらしと社会を支えるEKKグループ

EKKグループの高度なシール技術、特殊溶接技術、動力伝達技術、バルブ技術等から生まれる多彩な製品は、人々のくらしやさまざまな産業分野に役立っています。



8 特集 社会を支えるEKKの先進技術 海上輸送を支える、環境にやさしいプロペラ「省エネ研磨」

KEMELカンパニーは、プロペラ「省エネ研磨」で船舶運航の低燃費化を実現し、省資源、地球温暖化防止にも貢献しています。



10 事業活動ハイライト

EKKグループの最新の出来事や取り組みを幅広く紹介します。



12 環境報告 環境マネジメント

環境方針を定め、環境マネジメントを推進する仕組みを確立して、効率的かつ効果的な実践を図っています。



15 環境報告 環境保全への取り組み

地球温暖化防止と循環型社会の構築に向け、事業活動に伴う環境負荷の低減に取り組んでいます。



18 社会性報告 従業員・地域とともに

従業員のためにも、また地域の人々のためにも、安全で衛生的な職場環境を整備していくことは重要な責務であると考えています。



19 社会性報告 品質への取り組み

お客様の信頼に応え続けていくために、品質を最優先した製品・サービスの提供に努めています。



20 経営体制 CSRマネジメント

より信頼される企業となるため、事業の持続的発展が可能な経営体制を構築し、充実に努めています。



22 日本と世界に広がるEKKグループ



編集方針

本報告書は、環境活動報告、安全衛生活動報告に加え、社会的側面に関する記載の充実に努めました。環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」および「GRIサステナビリティ・レポートینگ・ガイドライン第3.1版」を参考に作成しました。

■報告対象期間

2013年度(2013年4月1日から2014年3月31日)の実績が中心ですが、2014年度の取り組みを一部含んでいます。

■報告対象組織

イーグル工業株式会社/イーグルブルグマンジャパン株式会社/岡山イーグル株式会社/島根イーグル株式会社/広島イーグル株式会社/イーグルハイキャスト株式会社/北海道イーグル株式会社/株式会社バルコム

■報告書発行日

2014年7月31日

■CSR報告書に関するお問い合わせ

イーグル工業株式会社
業務本部 総務部 CSR課
TEL.03-3432-3892 FAX.03-3432-5448
〒105-8587 東京都港区芝大門1-12-15
URL <http://www.ekk.co.jp/>

「より良い会社」を常に追求しながら、 「より良い社会」の実現に貢献していきます。



世界中の産業にとって、 なくてはならない存在であるために

イーグル工業株式会社は、1964年にNOK株式会社と米国シーロール社との合併企業として設立され、その後、日本をはじめ世界45カ国に子会社・関連会社100数社を有するグローバル・アンド・パブリックカンパニーに成長してまいりました。主力製品である各種ポンプ等に使われる軸封装置メカニカルシールをはじめ、関連機器を世界中の約5,000名の従業員の手により、文字通り世界中で作り世界中に販売しています。本年(2014年)10月1日には皆様のご支援のおかげをもちまして創業50周年を迎えます。

ステークホルダーとのかかわり



直近の2014年3月期においては売上高1,247億円、営業利益は114億円の増収・増益となりました。

私どもEKKグループが目指しているのは、お客様満足度(Customer Satisfaction)を高め、世界中のあらゆる産業における軸封装置に関するソリューション・プロバイダー(Solution Provider)としてなくてはならない存在価値を持つ中堅優良企業、グローバル・インテグラル・カンパニー(Global Integral Company)たることであります。それを確実にするための経営姿勢と哲学、具現化させるための各種活動について以下に触れます。

良き企業市民として社会と共生し、 さらに信頼される企業へ

EKKグループはNOKグループの主力企業の一つでもあります。そのNOKグループの哲学、「企業は株主、従業員及び社会の三者の共有物である」という考え方を全面的に経営の端々にまで展開しています。すなわち、働く従業員の満足度向上(Employee Satisfaction)を図るために、あるいは社会に受け入れられるために、各種法令の順守を何よりも優先するコンプライアンスの徹底、自然保護の立場での環境経営の展開、あるいは環境保全への積極的貢献、労働安全衛生面に対する徹底した管理、製品の品質を確保するための各種品質活動の充実などであり、それらはISO14001、OHSAS18001、ISO9001、あるいはISO/TS16949の運用実施に表れています。

さらには、イーグル工業は自動車・建設機械・船用・エアロスペース以外の一般産業分野においては、ドイツに本社を置くメカニカルシールメーカーのブルグマン社とアライアンスを組み、お互いの存在を尊

重しつつ且つ補完し合いながら世界戦略を展開していますが、これらの思想はEBIアライアンス(Eagle Burgmann Industries Alliance)にも展開されています。

それらの考え方の徹底と実践が、社会において良き企業市民として共生し、従業員の会社への誇りと仕事に対する真摯な姿勢を育み、より質の高い製品をお客様へ提供し続けることにより信頼を確保し、企業の最大の目標である適正利益の確保に繋がってきます。つまり私達はあくまで企業の長期的利益の確保を図ることを旨とし、その長期的利益の犠牲の元に短期的利益を追求することは絶対に行わない。いくら儲かるからといって、環境を破壊する恐れがあったり、将来とも品質の確保や供給責任を果たせない可能性のある製品やサービスの提供はしない。そして、経営者が代わろうとも、従業員が移り変わっていかうとも、いつの時代でも、いつまでも、EKKグループは、全てのステークホルダーが誇りを持てる、また社会からも愛される“良い会社”であり続けなければなりません。

“良い会社”であり続ける、これがEKKグループの最終的に目指している姿であり、また“より良い社会”の実現のために貢献していくことができる、これがEKKグループの願いであります。

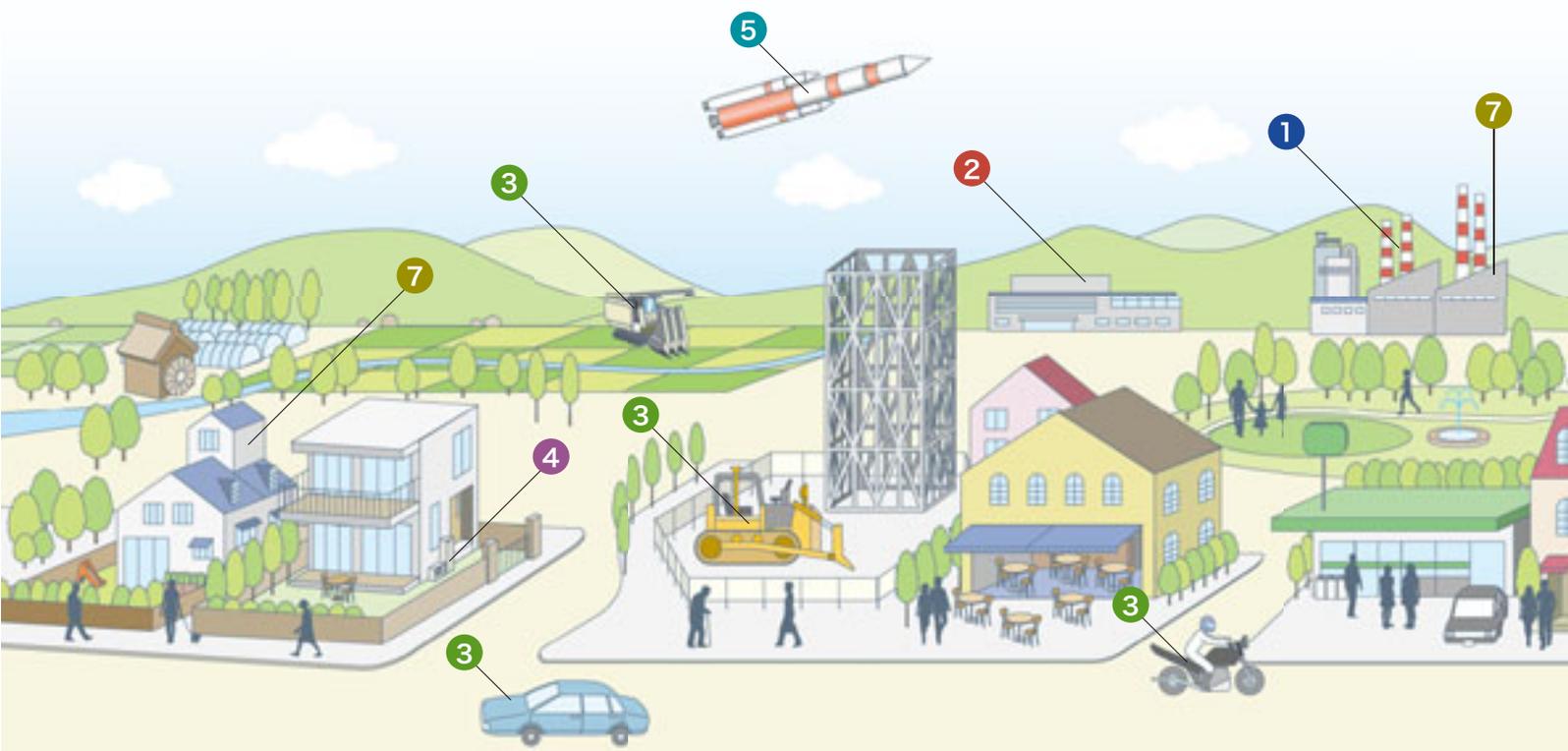
「CSR報告書2014」はステークホルダーの皆様に対し、EKKグループの環境保全活動への取り組み、品質の向上および社会的な活動に対する考え方や実績を紹介させていただいております。

皆様の忌憚のないご意見・ご感想をいただければ幸いです。

イーグル工業株式会社
代表取締役社長

鷲 鉄 二

くらしと社会を支えるEKKグループ



1 石油化学、鉄鋼、医薬、水、紙、食品

石油化学等の装置産業で大型コンプレッサーに使われるガスシール、工業用大型ポンプやプロセスポンプ等に使われるメカニカルシール、あらゆるケミカル分野で有効な攪拌機用シールユニット等をはじめとして、多様な製品群をそろえています。



マルチスプリングシール



メタルベローズシール



攪拌機用ドライシール



ドライガスシール

2 半導体製造

半導体製造装置やフラットディスプレイ製造装置の真空シールに使われる磁性流体シール、シリコンウェハーを研磨する化学研磨機やラッピング装置等に使われるロータリージョイント、ベローズ等があります。



磁性流体シール



ロータリージョイント



溶接金属ベローズ



カルレッツ®、スベリア
カルレッツ®は、米国デュポン社の登録商標です。

3 自動車、建設機械

カーエアコンやウォーターポンプのシール、エンジン等各種装置のソレノイドバルブ、二輪車等の排ガス対策用リードバルブ、建設機械や農業機械等の足回りに使われるフローティングシール、自動車の足回りやハイブリッド車用ブレーキシステムの部品であるアクチュエータ等、多彩な製品を安定的にお届けしています。



カーエアコン用リップシール



ウォーターポンプ用メカニカルシール



自動車用バルブ製品



アクチュエータ・バルブ製品



建設機械用フローティングシール



自動車用アクチュエータ



建設機械用アクチュエータ

4 住宅設備

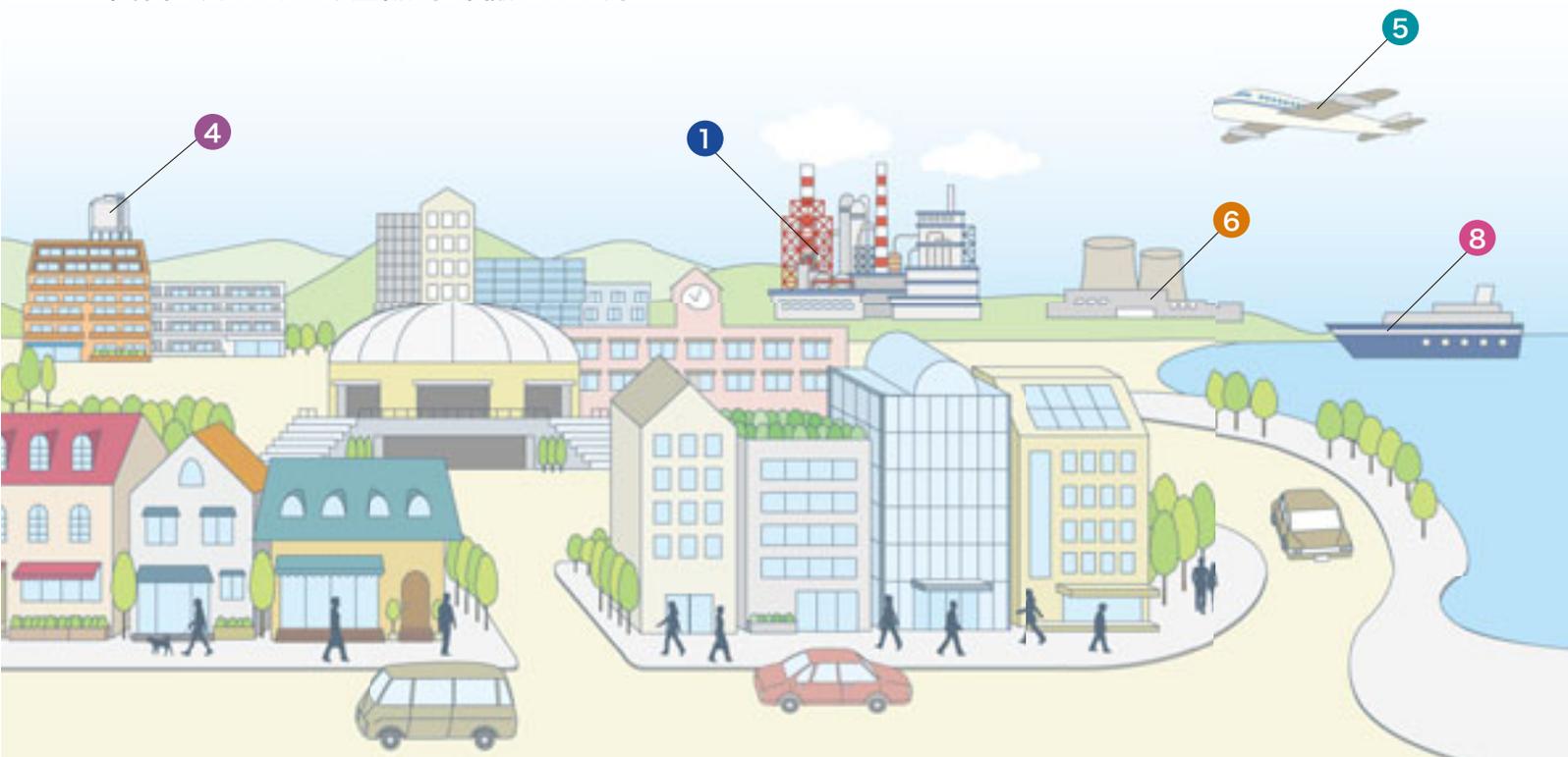
家庭用の温水洗浄便座、家庭用燃料電池、エコキュートなどに使われる各種バルブ、井戸水ポンプやビル・マンション向け給水システムに使われるアクチュエータを提供し、皆さまの快適で健康的な生活をサポートしています。



住宅設備用アクチュエータ



EKKグループは、シール技術、特殊溶接技術、動力伝達技術、バルブ技術を大きな柱に、各種メカニカルシール、特殊バルブ、船舶用製品、航空宇宙用製品、ペローズ関連製品、ダイヤフラムカップリング等をお届けしています。これらの製品は自動車、船舶、各種プラント、航空機やロケット等になくてはならない存在として広く利用され、世界中の人々のくらしや産業分野で貢献しています。



5 航空宇宙

ロケットのターボポンプや航空機エンジンのメインシャフト、ギアボックス等に用いられる各種シール等を供給しています。国際宇宙ステーションの日本実験棟「きぼう」に採用されているペローズアキュムレータもEKKグループ製品です。



スタティックシール

セグメントシール

航空エンジン用シール

ペローズアキュムレータ

ブラシシール

6 エネルギー

各種発電プラントのポンプや発電機に使われるシールを提供しています。特殊バルブは多くの発電所に採用されています。また、高温・高圧の条件下で使用できる各種シールもお届けしています。



ノーコンタクトシール

ダイヤフラムカップリング

主蒸気隔離弁

水車用シール

ブラシシール

7 センシング&イメージング

産業用カメラ製品、赤外線温度センサー、X線平面検出器や設備管理用圧力センサーなどを各種検査機器、家電製品などに供給し、工場や皆さまの生活の安全・安心、環境に貢献しています。



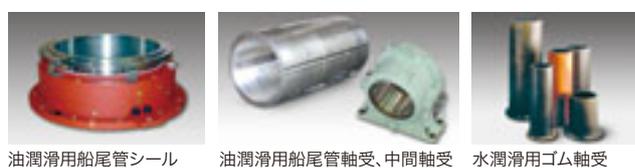
産業用カメラ

サーモパイル

X線平面検出器

8 船舶

プロペラシャフトに装着されて潤滑油の漏洩や海水の浸入を防ぐ船尾管シール装置や、船尾管軸受等を提供しています。空気を利用して油漏れを完全に抑えた無公害の船尾管シールも多くの船舶に採用されています。



油潤滑用船尾管シール

油潤滑用船尾管軸受、中間軸受

水潤滑用ゴム軸受



海上輸送を支える、環境にやさしい プロペラ「省エネ研磨」

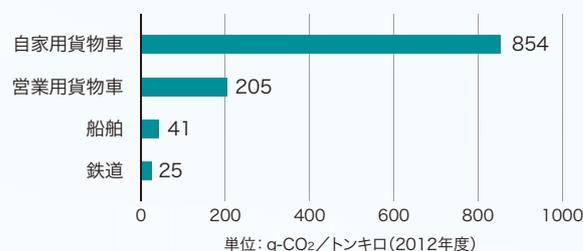


船舶は長距離・大量輸送に適し、比較的CO₂排出量も少ない輸送手段として、産業や暮らしを支えています。その中においてKEMELカンパニーは、プロペラの「省エネ研磨」で運航の低燃費化を実現し、省資源、地球温暖化防止にも貢献しています。

船舶は低炭素型輸送の担い手

船舶は何万馬力にもなる大型ディーゼルエンジンで動きます。その際に大量の燃料(C重油)を燃やし、地球温暖化の原因となるCO₂が発生します。しかし、トラックや航空機などと比べると、はるかに輸送効率が良いことから、日本政府では環境負荷の小さい輸送手段である船舶や鉄道への転換(モーダルシフト)を積極的に進めています。

■ 貨物輸送量あたりのCO₂排出量(2012年度)
(1トンの貨物を1キロメートル輸送するのに排出するCO₂量)



国土交通省環境政策課の資料より作成

船舶の省エネルギー技術

船舶は比較的環境負荷の小さい輸送機関ですが、燃費効率を高め、CO₂排出量を削減するため、省エネ技術を施すことが必要です。我が国では1970年代に石油危機が発生し、燃料が高騰したことから、船体抵抗の低減、エンジン効率の改善、プロペラ効率の改善など、省エネに関する技術開発が進められてきました。その中でKEMELカンパニーのプロペラ「省エネ研磨」は、就航後に簡単かつ低コストで施工でき、高い省エネ効果が期待できる技術として注目を集めています。

VOICE

施工担当者より

「省エネ研磨」は、工場内への持込作業はもちろん、私たちが現地へ出向き、プロペラを船に取り付けたまま作業することも可能です。施工時は、お客さまのご期待以上に丁寧かつ迅速な作業を心がけています。また、同時にプロペラの状態も診断し、万一ダメージが発見された場合には、その対応策を考え、しっかりとサポートしています。



イーグル工業株式会社
KEMELカンパニー
呉製造課
田崎 龍吾



新品以上の滑らかさを目指す「省エネ研磨」

プロペラは長年の航行と年数経過によって海洋微生物の付着、キャビテーション・エロージョン*、経年摩耗等が生じ、表面粗さが大きくなります。その結果、プロペラ効率の低下による船速ダウンや、プロペラ回転数ダウンによるトルクリッチ状態（エンジンとのマッチング不具合）が発生し、燃料消費量増加と、それに伴うCO₂排出量増加を招きます。KEMELカンパニーではこのようなプロペラに対し、その表面に鏡面加工を施す「省エネ研磨」を実施しています。これによってプロペラの海中での水の抵抗が低減し、推進効率が向上します。

表面粗さはISOの「粗度公差」で判定しますが、通常、新品プロペラは「S～I級」、修繕プロペラは「II級」以下となります。KEMELカンパニーでは、新品以上の表面粗さ「1μm Ra」を目標に鏡面加工することで、より大幅な推進効率向上に繋げています。また、「省エネ研磨」は、その他トラブルの早期発見や、損傷によるトラブル防止に繋がる効果があり、安全運航にも貢献します。

*発生する気泡によってプロペラが十分に水を押し出せない状態（キャビテーション）が生じ、また同時に発生する圧力波がプロペラ表面の壊食（エロージョン）を起こして、効率を下げたり壊したりする現象。

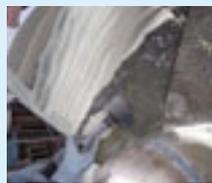
■ISOによるプロペラの表面粗さ

級	表面粗さ(Ra)	備考
S	3μm	新造船
I	6μm	—
II	12μm	修繕船

■省エネ研磨の工程



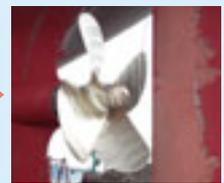
研磨前



プロペラに付着した海洋微生物、キャビテーション・エロージョンを取り除く



グラインダーで精密に仕上げている



研磨終了

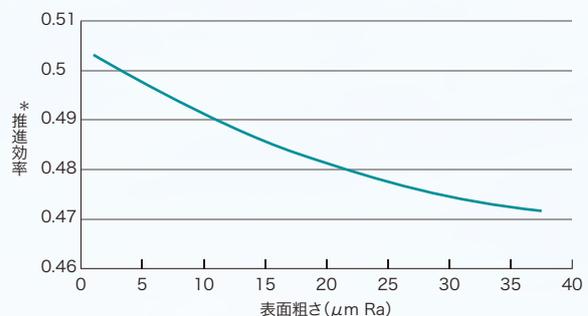
研磨による省エネ効果

タンク試験の結果、表面粗さ4.0μm程度のプロペラを表面粗さ1.0μm程度まで「省エネ研磨」すると約3～5%*の燃費効率が向上することがわかっています。「省エネ研磨」の実績が最も多い排水量500t程度の内航貨物船で使用される重油量は年間で約800t程度です。省エネ研磨により年間約24t程度（3%の効果として算出）の重油消費を削減可能となります。この量はCO₂換算で70t程度となり、一般家庭が年間に排出するCO₂排出量の約35軒分に相当します。

「省エネ研磨」はおかげさまで2013年度は過去最高の施工数となりました。KEMELカンパニーは、今後も「省エネ研磨」で地球環境の改善に貢献していきます。

*実際の運航船の場合、省エネ研磨前のプロペラの状態や省エネ研磨後の運航時のプロペラ表面の変化などの影響を受ける。

■プロペラの表面粗さと推進効率



*推進効率:「プロペラに供給される動力」に対する「プロペラに発生する動力」の比率を示している。推進効率が1.0に近づくほど、高い効率で「プロペラに供給した動力」が「プロペラの推進力」に変換されることを示しておりプロペラの省エネ効果などの指標となる。

VOICE

お客さまより

当社の運航船約60隻(年間)に対して平成19年より御社の省エネ研磨を実施していただいておりますが、その効果は当社試算で全船平均約2.5%が実証されております。

省エネ研磨は当社の実施している省エネ施策の中でもメインに位置づけられる施策になっており、その費用対効果にも非常に満足しております。

今後も省エネのメイン施策として実施を継続する予定です。



日鉄住金物流株式会社
内航海運本部
安全・船舶管理部長
大町 誠一郎 様



Highlight

EKKグループは「より良い会社」を目指してさまざまな事業活動を展開しています。ここでは、その中から、最新の出来事や取り組みを中心に紹介します。

オプトエレクトロニクス製品群を加え、事業分野を拡大

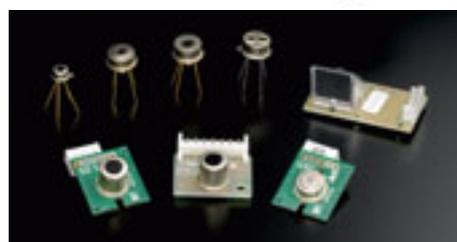
NOK株式会社と米国EG&G社との合併で、1989年にNOKグループのオプトエレクトロニクス事業の担い手として設立されたネオプト株式会社より、2013年10月、事業譲渡を受け、新たにイーグル工業(株)ネオプトカンパニーが発足しました。

同カンパニーは、自社開発の各種産業用カメラ製品をはじめ、赤外線温度センサ、X線平面検出器や各種受発光素子、工業用インクジェットプリンティングヘッドなどを取り扱っています。これらセンシング&イメージング製品の拡販を通じて、各種検査装置、家電製品や事務機器のみならず、メディカル&ヘルスケア分野も視野に入れ、安全・安心・環境をキーワードに、クオリティ・オブ・ライフ(生活の質)の維持・向上に貢献していきます。



X線平面検出器

産業用カメラ



サーモビル

EKKが日本政策投資銀行(DBJ)環境格付を取得

イーグル工業(株)では、環境保全活動に対する客観的評価を行うため、2014年2月、(株)日本政策投資銀行によるDBJ環境格付評価を受審しました。この格付評価は、環境に関する「経営全般事項」「事業関連事項」「パフォーマンス関連事項」について同銀行が有識者からの意見を踏まえて作成した120項目に及ぶスクリーニングシートを基に厳正な書類・ヒアリング調査を行い、対象企業の環境保全活動状況を評価し格付するものです。

受審の結果、イーグル工業(株)は5段階評価の上から2番目のBランク＝「環境への配慮に対する取り組みが先

進的」という評価・格付となりました。今回「特に優れたポイント」として評価された項目、「製品(開発)における環境貢献」等について一層の充実を図るとともに、課題として挙げられた項目、「海外関連企業の環境保全活動の活性化」等については重点的に取り組んでいきます。



「DBJ環境格付」認定証

EKK本社が「みなとエコ宣言」活動へ参加

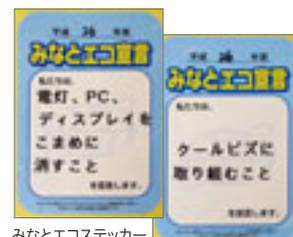
イーグル工業(株)では、各事業所所在地において、地域の環境貢献活動へ積極的に参加しています。イーグル工業(株)本社が所在する東京都港区では、本社事業場から500mのところにある「港区エコプラザ」という施設が中心となり、いろいろな環境貢献活動が行われています。そこで、この施設を訪問したところ「みなとエコ宣言」という活動を紹介していただきました。

この活動は、港区に所在する事業者がそれぞれの立場で「みなとエコ宣言」を行い、それを港区のホームページに公開するとともに社内で専用表示板に記載・掲示

することで、港区の環境貢献活動の啓蒙・活性化を図るというものです。イーグル工業(株)では、今回、普段から行っている2つの活動を「みなとエコ宣言」として掲げました。改めて全員で取り組んでいきます。



「みなとエコ宣言」登録証



みなとエコステッカー

KEMELカンパニー呉事業場が「安全衛生優良企業」表彰受賞

全国安全週間活動の一環として、広島県労働基準協会呉支部の安全部会委員様がイーグル工業(株) KEMELカンパニー呉事業場を訪れ、安全パトロールを実施しました。その結果、安全衛生活動に積極的に取り組んでいるとして、同事業場は平成25年度安全衛生優良企業「努力賞」を受賞しました。授賞式には、事業場長他一名が出席し、同協会呉支部長より表彰状をいただきま

した。同事業場では、今後も事業活動に伴う災害や事故から社員を守るため、労働安全衛生や保安防災活動に力を入れてまいります。



EKKが「FC吉備国際大学Charme(シャルム)」公式スポンサーに

イーグル工業(株)では、岡山事業場の地元・高梁市にある吉備国際大学女子サッカー部「FC吉備国際大学Charme(シャルム)」が、2013年シーズンより女子サッカー1部リーグである「なでしこリーグ」へ昇格したのを機に、同チームの公式スポンサーとなりました。イーグル工業(株)は社内的なサポートとして、募金やグッズ販売への協力・岡山事業場のグラウンドをシャルムU-5(3~5歳)サッカースクールに提供しています。

なでしこリーグ残留を賭けた入れ替え最終戦は、PK戦までもつれ込みましたが見事に残留を決め、2014シーズンもなでしこリーグで戦うことが決まりました。選手達に



フィールド看板スポンサー



本社表敬訪問
(2013年9月撮影)

とって観戦・応援が強力なサポートになるので、スタジアムに足を運ぶよう当社従業員に呼び掛けています。

豊かなスポーツ文化創造に向け、「アルビレックス新潟」を応援

イーグルブルグマンジャパン(株)では、『J1リーグ』と『なでしこリーグ』の「アルビレックス新潟」に対し、2014年シーズンから地元企業として協賛を始めました。トップチーム、レディースチームの試合時のバナー広告とレディースチームのトレーニングウェアへのEagleBurgmannロゴマークを提供しています。イーグルブルグマンジャパン(株)は新潟県に根付く企業として、両チームの活躍と、『Jリーグ百年構想』に基づく「人づくり」「まちづくり」「豊かなスポーツ文化の創造」を支援します。



スタンドに掲示したロゴ(バナー広告)

トレーニングウェア袖口にも
ロゴを表示
©ALBIREX NIIGATA



事業場を訪れたアルビレックス新潟の中村 楓 選手

EKK岡山事業場で、地域住民の方と「夏祭り」を開催

2013年7月20日にイーグル工業(株)岡山事業場にて夏祭りを開催しました。毎年、従業員とその家族、地域住民の方々にも楽しみにしていただいている恒例行事であり、焼き鳥・かき氷等の出店、若手をはじめとした従業員による活気あふれるダンスやコント等の出し物、

そして豪華景品が当たる抽選会等、今年も盛りだくさんの内容となりました。今後も会社と地域の方々との貴重な交流の場として継続していきたいと思っております。





環境マネジメント

EKKグループ全体で継続的に環境保全活動に取り組んでいくために、環境方針を定め、環境マネジメントを推進する仕組みを確立して、効率的かつ効果的な実践を図っています。

環境方針

基本理念

イーグル工業株式会社及びそのグループ会社は、企業が社会の一員であること、及び私達が生産するシール関連製品は公害防止・省エネルギー等環境保護に寄与する製品であることを踏まえ、事業の活動、製品及びサービスが地球規模での環境影響に深く関わりを持つことを自覚し、コンプライアンス(遵法の精神)を活動の原点とし、自主的・継続的に地球環境の保全に取り組みます。

行動指針

1. 製品の開発にあたっては、環境影響に配慮します。
2. 省資源・省エネルギーに努めます。
3. 廃棄物の低減と再資源化に努めます。
4. 環境影響の継続的改善及び汚染の予防に努めます。
5. 法規制及び同意するその他の要求事項を遵守します。
(その他の要求事項とは、例えば「加入している工業会の環境指針」等をいいます。)
6. 環境目的・目標を設定し、適切な頻度で見直し、環境パフォーマンス向上を図ります。

環境マネジメントシステム

■ 環境管理組織体制

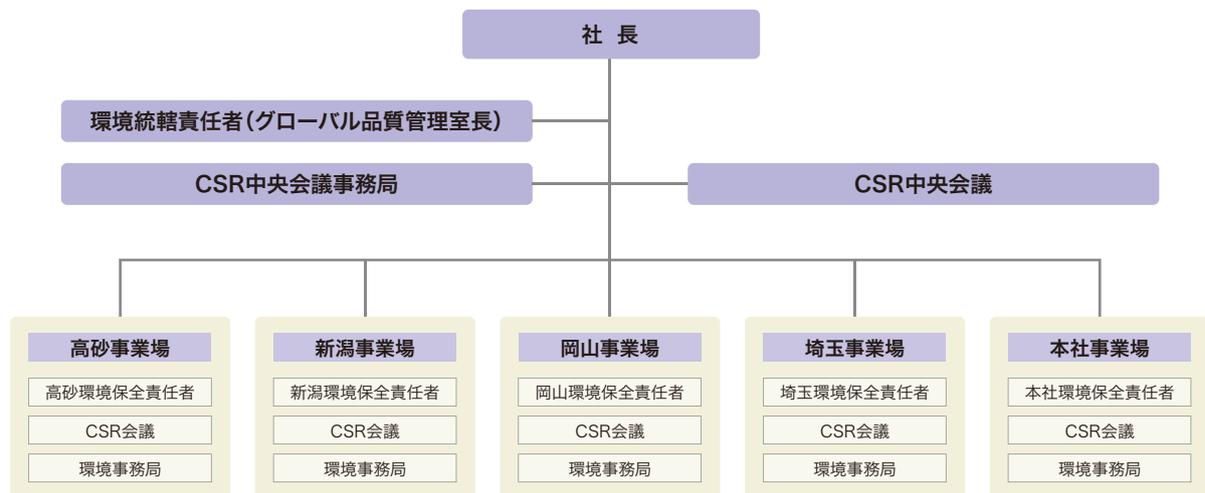
EKKグループでは、全社規模の環境マネジメント体制を整えています。体制の中心となるのは社長を議長とし、各事業場の環境保全責任者で構成される「CSR中央会議」です。

ここで決定された目的・目標のさまざまな取り組みが環境統

轄責任者によって各事業場に展開されます。

また、各事業場の環境保全責任者を議長とする「事業場CSR会議」が置かれ、ここで確認された各事業場の取り組みは「CSR中央会議」で報告され、経営層によるマネジメントレビューが実施されます。

● 環境マネジメント体制



■ 環境に関連する法令順守状況

EKKグループで順守すべき法令等は約300項目あり、すべての項目について定期的に順守を確認する体制をとっています。

●EKKの事業活動に関連する主な環境法令等

- 悪臭防止法
- エネルギーの使用等の合理化に関する法律
- 下水道法
- 工業用水法
- 工場立地法
- 浄化槽法
- 振動規制法
- 水質汚濁防止法
- 騒音規制法
- 大気汚染防止法
- 地球温暖化対策の推進に関する法律
- 特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律
- 特定工場における公害防止組織の整備に関する法律
- 特定物質の規制等によるオゾン層の保護に関する法律
- 毒物及び劇物取締法
- 廃棄物の処理及び清掃に関する法律
- 特定家庭用機器再商品化法
- ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法
- 特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律
- 河川法
- 瀬戸内海環境保全特別措置法
- 排水基準を定める省令
- 土壤汚染対策法
- 使用済自動車の再資源化等に関する法律
- RoHS指令
- ELV指令
- REACH規制

■ ISO14001 認証取得状況

EKKグループでは、本社および国内の生産事業場が環境マネジメントシステムの国際標準規格「ISO14001」の認証を一括取得しています。これにより、同一方針、同一目的・目標のもとに、統一の取れた環境保全管理活動を行っています。2013年10月にEKKグループに加わったネオプトカンパニーについては「ISO14001」認証取得準備を完了しました。2014年度に実施される「ISO14001」更新審査時にネオプトカンパニーを含めてEKKグループの「ISO14001」認証範囲を拡大し、一括して継続取得いたします。

●認証取得状況

企業	サイト
イーグル工業(株)	埼玉事業場、岡山事業場、KEMELカンパニー(高砂事業場、呉事業場、新潟事業場)、EKK本社・営業支店
イーグルブルグマンジャパン(株)	新潟事業場、埼玉事業場、EJJ本社・営業支店
イーグル・エンジニアリング・エアロスペース(株)	
岡山イーグル(株)	
島根イーグル(株)	
広島イーグル(株)	
北海道イーグル(株)	

■ 緊急事態対応

EKKグループでは、燃料油・溶剤・排水処理液等が万が一漏洩した際に備え、さまざまな事態を想定し定期的に緊急事態対応訓練を実施しています。2011年3月の東日本大震災で被災した他企業の経験等も参考にしながら、今後想定されている大規模災害なども考慮し、緊急事態対応のさらなる改善を推進しています。



緊急事態対応訓練(岡山事業場)

■ ISO14001 更新・定期審査および内部監査等

EKKグループでは、環境マネジメントシステムが適正に運用されてPDCAによるスパイラルアップができてきているかを検証するため、監査力量を有する社内監査員による内部監査、および外部審査機関による審査を毎年実施しています。これらの結果は経営層へ報告し、経営層と問題点や改善事項を共有しながら以降の環境保全活動に展開しています。2013年度は、毎年実施される定期審査を受審し、ISO14001システムの継続認証を得ました。2014年度は2013年10月にEKKグループに加わったネオプトカンパニーへの認証拡大を含めて3年毎に実施される更新審査を受審します。



ISO定期審査(新潟事業場)



ISO定期審査(岡山事業場)



ISO定期審査(埼玉事業場)



ISO定期審査(九州支店)



ISO定期審査
(KEMELカンパニー 高砂事業場)

目的・目標と実績

EKKグループでは当年度、翌年度、翌々年度の年度別環境目標を設定し、継続的に取り組むことで目標の着実な達成を目指しています。

環境方針	目的	2013年度 実績	2014年度 目標	2015年度 目標	2016年度 目標
製品の開発にあたっては、環境影響に配慮する	会社の技術・資源等を活用し、環境影響の抑制に寄与する製品または環境配慮型製品を開発する	各事業場設計部門の計画に基づき推進	各事業場設計部門の計画に基づき推進	各事業場設計部門の計画に基づき推進	各事業場設計部門の計画に基づき推進
省資源・省エネルギーに努める	原油換算原単位を前年度対比で1.0%削減する(省エネ法に基づく複数原単位分母での目標値)	前年度対比5.6%減	前年度対比1.0%減	前年度対比1.0%減	前年度対比1.0%減
	LCA(Life Cycle Assessment:環境影響評価手法)の導入『一部の製品を対象に、製品のライフサイクルにおける環境影響を評価する仕組みを導入する』	LCAの概要把握と代表製品での算出	LCAの導入(LCA対象の選定と各部門でのデータ算出用ツールの導入)	LCA実施による環境負荷量の把握	LCA実施による環境負荷量の把握 LCA対象の拡大検討
	Scope3(15項目*で構成される企業活動範囲外での間接的な温室効果ガス)への対応検討 ※ 1.購入した物品・サービス、2.資本財、3.燃料・エネルギー関連活動、4.上流の輸送・流通、5.事業から発生する廃棄物、6.出張、7.従業員の通勤、8.上流のリース資産、9.下流の輸送・流通、10.販売した製品の加工、11.販売した製品の使用、12.販売した製品の廃棄物の処理、13.下流のリース資産、14.フランチャイズ、15.投資	—	対応方針の検討	対応方針に基づく対応準備	対応方針に基づく対応
廃棄物の低減と再資源化に努める	廃棄物の適正な分別管理により、リサイクル率について2013年度に引き続き、ゼロエミッション基準を維持する	99.4%	98% [ゼロエミッションの維持]	98% [ゼロエミッションの維持]	98% [ゼロエミッションの維持]
環境影響の継続的改善および汚染の予防に努める	PCB入り設備(装置)を適正に管理する	適正管理維持を実施	管理手順に従った適正管理	管理手順に従った適正管理	管理手順に従った適正管理
	オゾン層破壊物質の大気放出量を適正(各事業場の管理指標に従う)に管理する【2020年度までに全廃】《対象物質:HCFC225》	HCFC225使用量1,232kg	各事業場の指標に従った適正管理	各事業場の指標に従った適正管理	各事業場の指標に従った適正管理
	地域環境への貢献活動の推進	事業場周辺の環境保全活動実施その他地球貢献活動の抽出	事業場周辺の環境保全活動その他地域貢献活動の展開	事業場周辺の環境保全活動その他地域貢献活動の展開	事業場周辺の環境保全活動その他地域貢献活動の展開
法規制および同意するその他の要求事項を順守する	環境に関する顧客問合せに確実に対応する	システム検討・導入準備	システム試行運用・本格運用	システム本格運用	システム本格運用
	原料・材料・部品・製品のグリーン購入の推進を図り、グリーン調達率*を2014年度までに100%とする	グリーン調達率88.4%	グリーン調達率100%	取引先の適正管理の維持	取引先の適正管理の維持
	事業場からの油・酸・アルカリ等、有害物質の流出防止を図る『排水処理施設の管理』『油・酸・アルカリ等、有害物質の緊急時に備えた対応』	管理手順に従った適正管理(自主基準に基づく監視・測定)	管理手順に従った適正管理(自主基準に基づく監視・測定)	管理手順に従った適正管理(自主基準に基づく監視・測定)	管理手順に従った適正管理(自主基準に基づく監視・測定)
	土壌・地下水汚染の継続的改善	地下水汚染浄化対策実施中	管理手順に従った適正管理	管理手順に従った適正管理	管理手順に従った適正管理
	溶解炉から放出するばい煙を適正に管理する	管理手順に従った適正管理を実施	管理手順に従った適正管理(自主基準に基づく監視・測定)	管理手順に従った適正管理(自主基準に基づく監視・測定)	管理手順に従った適正管理(自主基準に基づく監視・測定)
環境方針1.~6.項	環境管理活動の活性化	表彰基準の検討	表彰制度の導入	表彰制度の運用	表彰制度の運用

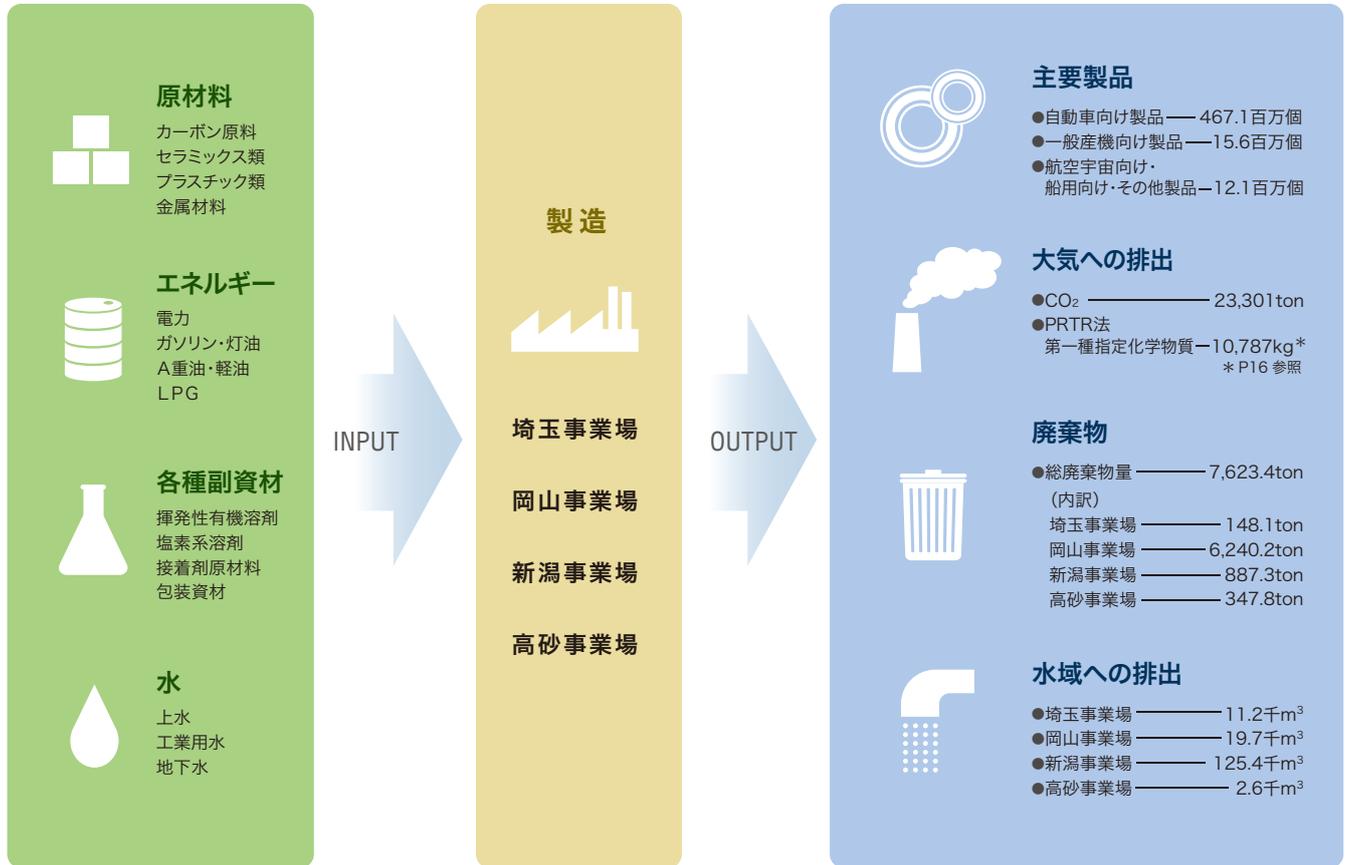
* グリーン調達率=(「グリーン調達ガイドライン」順守取引先数÷「グリーン調達ガイドライン」適用取引先数)×100



環境保全への取り組み

EKKグループでは環境マネジメントシステムを構築し、省エネルギー、廃棄物削減、有害物質の適切な管理等、環境保全に貢献するための活動を継続的に推進しています。2013年度は、最新のエネルギー管理手法に基づく取り組みも開始しました。

事業活動と環境負荷



オゾン層破壊物質削減の取り組み

■ HCFC225(オゾン層破壊物質)の排出削減

EKKグループでは精密部品の洗浄等にオゾン層破壊物質であるHCFC225を使用しています。これまで、一部製品を対象とした代替化や、HCFC回収装置のメンテナンス頻度を上げることで、大気放出量の削減等の改善にも取り組んできました。その結果、HCFC排出量の統計を開始した2003年度に対して

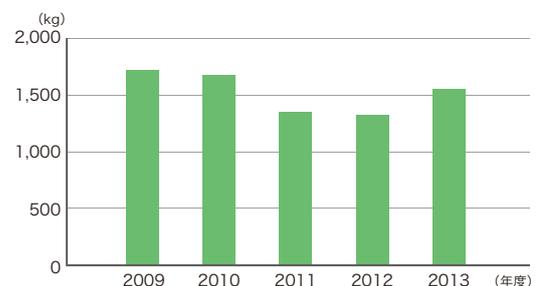
HCFC排出量を74%削減しています。2013年度は容易に代替化が難しい製品でHCFC225の使用を継続していますが、回収装置の効率的運用を行う中で当該製品の生産数量が大幅に増加したため、2012年度との比較でHCFCの排出量が増加となりました。

2020年度までのHCFC225の全廃に向けて、HCFC225の代替化検討を専門メーカーとも連携しながら推進します。



HCFC回収装置

●HCFC225排出量の推移



PRTR法への対応

EKKグループでは、指定化学物質の環境への排出量・移動量の届出を義務付けるPRTR法(特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律)に従い、該当する下記7物質について法規制に基づく届出を行いました。

●PRTR法第一種指定化学物質の排出・移動量

政令番号	第一種指定化学物質の名称	排出量(kg)					移動量(kg)	
		大気	公共用水域	事業所土壌	事業所埋立	下水道	事業所外	
71	塩化第二鉄	0	0	0	0	0	636	
185	ジクロロベンタフルオロプロパン	683	0	0	0	0	145	
186	ジクロロメタン	500	0	0	0	0	0	
258	ヘキサメチレンテトラミン	0	0	0	0	0	2,371	
300	トルエン	9,604	0	0	0	0	1,400	
308	ニッケル	0	0	0	0	0	20,289	
349	フェノール	0	0	0	0	0	1,601	
	合計	10,787	0	0	0	0	26,442	

EU指令(ELV規制*1・RoHS指令*2)への対応

EUは、材料・構成部品に含有される環境負荷物質を排除するため、ELV規制(自動車業界)で鉛、水銀、カドミウム、六価クロムを、またRoHS指令(電子業界)でこれら4物質に加えて臭素系難燃剤(ポリ臭化ビフェニル、ポリ臭化ジフェニルエーテル)の使用を禁止しました。EKKグループではこの規制に従って、これらの物質のEKK製品からの排除を進めてまいりました。

現在、これらの物質を使用している一部の製品につきましては、お客様に適切な情報提供を行うとともに、代替化検討をお客様と連携しながら継続して推進しています。

*1 ELV規制=EUが2000年10月より施行した、使用済み自動車(End of Life Vehicle)に関する指令

*2 RoHS指令=EUが2006年7月より施行した、電気電子機器に関する指令

土壌、地下水汚染改良への取り組み

埼玉事業場では、1965年の開設以来、1997年まで金属製品の洗浄工程に塩素系溶剤のトリクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタンを使用していました。1995年からの自主調査でこれらの塩素系溶剤による土壌汚染が生じていることが判明し、また、その後の調査で地下水汚染が判明しました。土壌汚染については汚染土壌の入替工事を行い、地下水汚染については汚染の拡大防止のため事業場敷地境界にバリア井戸を敷設しました。さらに、事業場内に汚染除去設備を敷設し、浄化作業を継続して実施しながら、その効果を定期的に行政に報告しています。

製品に含有される環境負荷物質の管理に対する取り組み

お客様に提供する製品に含有される環境負荷物質についての法規制は年々厳しくなっており、お客様から管理を要求される環境負荷物質は膨大な数となっております。EKKでは、仕入先様から購入する原材料・部品・副資材・梱包材等に関する環境負荷物質管理の徹底を目的に「NOKグループグリーン調達ガイドライン」をNOKグループと共同で設定し運用しております。

また、仕入先様に「NOKグループグリーン調達ガイドライン」に対する合意書の提出を要請しております。「NOKグループグリーン調達ガイドライン」に対する合意書をご提出いただいた仕入先様は、2013年度末時点で88.4%(=グリーン調達率)となっております。

EKKグループや仕入先様の製造工程の点検・監査の実施を含めて仕入先からお客様までを通じたサプライヤーチェーンでの環境負荷物質の適切な管理体制を構築するとともに、材料・部品・副資材等から製品に含有される環境負荷物質のデータベース化なども積極的に推進しながら、環境負荷物質管理体制の更なる充実を図っています。

環境投資

●2013年の主な投資内容

(1) 埼玉事業場(111,004千円)

新合併槽の設置、省エネ照明の導入、省エネ空調の新設、地下水浄化井戸の更新

(2) 岡山事業場(70,270千円)

工場屋根の断熱塗装、工場棟への断熱材導入、焼成炉の断熱化、照明のLED化、エアコン用冷温水発生機更新

(3) 新潟事業場(14,055千円)

電力中央監視システムの増設、省エネ照明の導入

(4) 高砂事業場(2,100千円)

社有車のハイブリッド化

●環境投資実績 (単位:千円)



省エネルギー

省エネルギーによる地球温暖化防止への貢献を重要な取り組み課題と捉え、積極的に活動を進めています。各工場では、省エネ機器の導入、PCや蛍光灯のこまめな消灯などの節電活動を継続しています。2013年度は社長方針である「ムダ半活動」(従来業務の目的を改めて見直すことで「ムダな業務の撲滅」を図り、業務の抜本的効率化を推進する活動)に全員で取り組みました。こうした活動の結果、2013年度のエネルギー原単位について、対前年度比「1.0%削減」という目標に対し、同「6.8%削減(生産金額を原単位分母とした場合)」という大きな効果が得られました。

●EKKグループのエネルギー排出量推移



2013年度のエネルギー総使用量は、業容の急速な拡大に伴う生産増のため、2005年度対比20.1%増となりました。一方、生産金額を基準としたエネルギー原単位では、節電活動やムダ半活動の取り組みにより、同25.9%削減となっています。

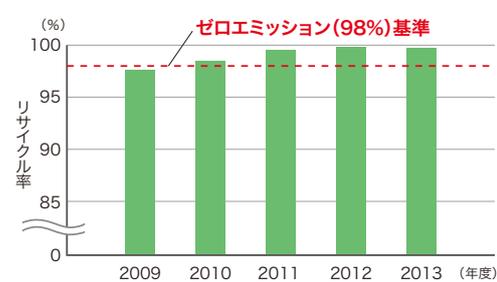
廃棄物の削減

EKKグループでは、事業活動に伴って発生する廃棄物を、法に従い安全かつ適正に処理しています。各工場では、廃棄物置き場を設置して適切に分別保管し、産業廃棄物処理業者に渡しています。この業者で適切な輸送や処理が行われていることも定期的に確認しています。また、2001年度当初、リサイクルできたのは一部の金属廃棄物のみでしたが、その後、廃プラスチック、カーボン粉、有機汚泥等のリサイクル化を図り、2013年度はリサイクル率を99.4%まで向上させました。



廃棄物置き場(岡山事業場)

●EKKグループのリサイクル率推移



最新のエネルギー管理手法(Scope3とLCA)に対する取り組み

GHG(Greenhouse gas: 温室効果ガス)については、自社だけでなくサプライチェーン全体の排出量を把握し、開示することが社会的要求になりつつあります。EKKでは、2013年度から、Scope1やScope2のような自社工場(事務所)から排出される

GHGだけでなく、最新のエネルギー管理手法であるScope3*1とLCA*2に基づき、上流側(調達)から下流側(使用・廃棄)までのGHG排出量の算定・評価への取り組みを始めました。

*1 国際組織「GHG Protocol」によって策定されたGHGの算定基準。Scope1では企業自身が所有・管理する排出源からの直接排出が、またScope2では企業自身が購入した電力・蒸気・熱等の使用に伴う間接排出が対象とされたが、最新基準として、Scope2を除くその他(サプライチェーンの上流および下流)の間接排出もScope3として対象に加えられた。

*2 Life Cycle Assessment(ライフサイクルアセスメント)の略。製品のライフサイクル(原材料調達から、生産、流通、使用、廃棄まで)における全段階で投入された資源、エネルギー等による環境負荷が環境に及ぼす影響を定量的に評価する手法。

●EKK代表製品のGHG(CO₂)排出量

製品名	1個あたりGHG(CO ₂)排出量
カーエアコン用リップシール	38.1g
ウォーターポンプ用コンパクトメカニカルシール	45.8g

※JAPIA(日本自動車部品工業会)標準LCIデータ算出ガイドラインに基づく

これらの製品は生産個数が多いため、1個あたりのGHG排出量を抑制すると、生産数全体での地球温暖化防止への貢献度は大きくなります。今回の結果をもとに上流の工程や設計の改善を進めるとともに、下流でのGHGの排出量および排出抑制効果等の算出基準などについても検討を継続したいと考えています。

●EKK製品のライフサイクルとGHG算出範囲(JAPIA標準LCIデータ算出ガイドラインに基づく)



2014年度はScope3で定められている15カテゴリー(右記)に対するEKKとしての対応方針を検討します

①購入した物品・サービス ②資本財 ③燃料 ④エネルギー関連活動 ⑤上流の輸送・流通 ⑥事業から発生する廃棄物 ⑦出張・従業員の通勤 ⑧上流のリース資産 ⑨下流の輸送 ⑩流通・販売した製品の加工 ⑪販売した製品の使用 ⑫販売した製品の廃棄後の処理 ⑬下流のフランチャイズ ⑭フランチャイズ ⑮投資





従業員・地域とともに

従業員のためにも、また地域の人々のためにも、安全で衛生的な職場環境を整備していくことが重要な責務であると考えています。今後とも労働安全衛生の確保をはじめ、従業員の心と体の健康づくり、交通安全の推進等に積極的に取り組んでいきます。

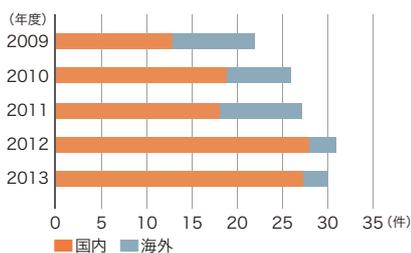
労働安全衛生の取り組み

EKKグループでは「安全衛生方針」を定めるとともに、各事業場では事業場長が総括安全衛生管理者となり、各部門長を通じてライン管理と安全衛生専任部署のスタッフ部門とが連携する「ラインスタッフ型」安全衛生管理組織を設け、かつOHSAS18001の考え方を導入し、安全衛生活動を推進しています。これと本社総務部が有機的に連携することで、全社レベルでの安全衛生活動に取り組んでいます。

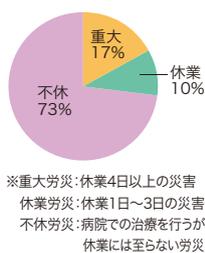
国内外労働災害発生状況

EKKグループでは国内外で毎年30件近くの労働災害が発生しています。労働災害は不安全状態(設備の安全装置欠如等)や不安全行動(人の行動)によって発生するといわれるため、不安全状態の排除策として新規設備・機械の点検パトロールを行い、また不安全行動の抑制策として、不安全行動から生じる危険状態を体感できる複合設備を2012年より導入しています。荷振れによる挟まれ災害や電気災害等、想定される危険を数多く体感できるよう内容を充実させ、通常作業時のヒヤリハットや危険予知訓練の底上げと、リスクアセスメントの充実を図っています。危険体感複合機による教育は国内事業場では2013年度でほぼ完了したため、2014年度からは海外事業所へも展開し、国内外で労働災害発生防止に努めていきます。

●労働災害発生件数



●2013年度労働災害内訳



●危険体感複合機受講者数(延べ人員)

事業場	2012年度	2013年度	延べ
埼玉事業場	123	56	179
北海道イーグル	0	21	21
岡山事業場	109	378	487
岡山イーグル	34	169	203
島根イーグル	27	0	27
広島イーグル	36	136	172
KEMELカンパニー	0	55	55
イーグルハイキャスト	0	42	42
イーグルブルグマンジャパン 新潟事業場	148	0	148
合計	477	857	1,334

心と体の健康

EKKグループでは、従業員の心身の健康維持・増進を図るため、24時間電話健康相談サービス(無料)を実施しています。また、産業医、看護師、管理職が共同して従業員のメンタルヘルスケアに取り組む等、心身の健康管理を積極的にサポートしています。

●2013年度電話健康相談実績

相談内容	件数	相談内容	件数
健診・ドックに関する相談	4	育児相談	114
健康保持・増進に関する相談	1	夜間・休日の医療機関の案内	24
気になる体の症状についての相談	337	ストレスおよびメンタルヘルスに関する相談	42
家庭看護	63	医療機関の相談	58
治療に関する相談	275	その他	16
母子保健に関する相談	2	合計	936

※上記件数は、NOK、EKKグループの合計

交通安全の取り組み

EKKグループでは、交通安全教育の一環として交通安全運動を実施しています。

また、無事故・無違反の従業員に対しては、5ヵ年ごとに表彰しています。

交通事故や交通違反を犯した従業員には、その運転が業務上か私用かを問わず「事故報告書」または「違反届」を提出してもらい、職場ごとに自戒を促し、再発防止に努めています。

主な安全関係の設備投資・法定点検費用

2013年度の主な投資内容(修繕含む/計62,372千円)

- 埼玉事業場(6,982千円)
消防用水槽設置、作業環境測定、消防設備法定点検・修繕、クレーン、フォークリフト、プレス年次点検
- 岡山事業場(43,250千円)
局所排気装置増設、回転系機器(ロクロ等)安全対策、ミストイレーサー更新
- KEMELカンパニー(4,540千円)
ドラム缶反転機更新、熱中症対策費、重量物保管庫落下等対策追加
- イーグルブルグマンジャパン(株) 新潟事業場(7,600千円)
酸素濃度/ガス漏れ検知機更新・校正、各種年次点検



「安全衛生方針」については、イーグル工業株式会社ホームページでご紹介しています。

<http://www.ekk.co.jp/csr/safe.html>





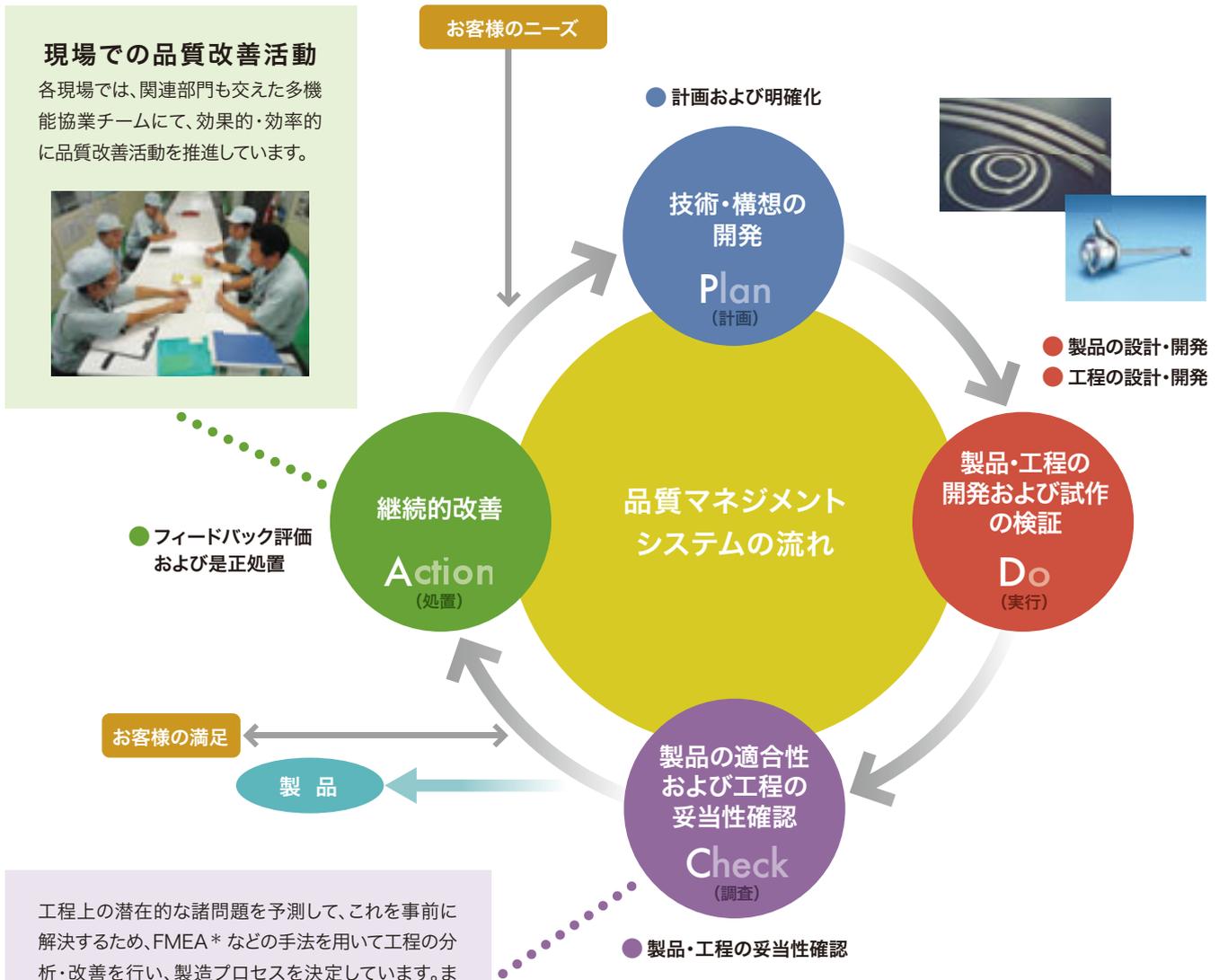
品質への取り組み

EKKグループでは、お客様の信頼に応え続けていくために、品質を最優先した製品・サービスの提供に努めています。また、お客様ニーズを的確にとらえ、製品・工程の改善を継続的に実現していくことで、お客様満足の上に取り組んでいます。

品質向上に向けた継続的な取り組み

製品の品質に対するお客様の要求は年々厳しくなっており、また、一方で製造技術や設備もますます高度化・複雑化しています。このような状況に対応するためには、ISO9001(品質マネジメントシステム-要求事項)、ISO/TS16949(自動車生産及び関連サービス部品組織のISO9001適用に関する固有要求

事項)、JIS Q 9100(航空宇宙品質マネジメントシステム)等を導入し、これらを適確に維持・運用していく必要があります。イーグル工業(株)ではISO9001等の品質の国際規格認証を取得して、品質向上活動を推進しています。



* FMEA(Failure Mode and Effects Analysis)とは、製品や工程に関する潜在的故障とその影響を認識して評価を行い、それらの発生機会を解消または減少させ得る処置を明確にし、その経過を文書化する、故障・不具合の体系的分析方法

品質の国際規格認証取得状況

事業部/グループ会社	主な関連業界	取得規格	取得年月
AI・CI事業部	建設機械・原子力発電・自動車	ISO9001 ISO/TS16949	1999年 5月 2005年10月
航空宇宙事業部	航空・宇宙	JIS Q9100 (ISO9001を含む)	2004年 4月
KEMELカンパニー	船舶	ISO9001	1994年 3月
イーグルブルグマンジャパン(株) 新潟事業場	一般産業機械	ISO9001	1999年 3月
イーグルハイキャスト(株)	鑄造	ISO9001	2001年11月

CSRマネジメント

社会的責任を果たしながら、より信頼される企業となるため、
事業の持続的発展が可能な経営体制を構築し、充実に努めています。

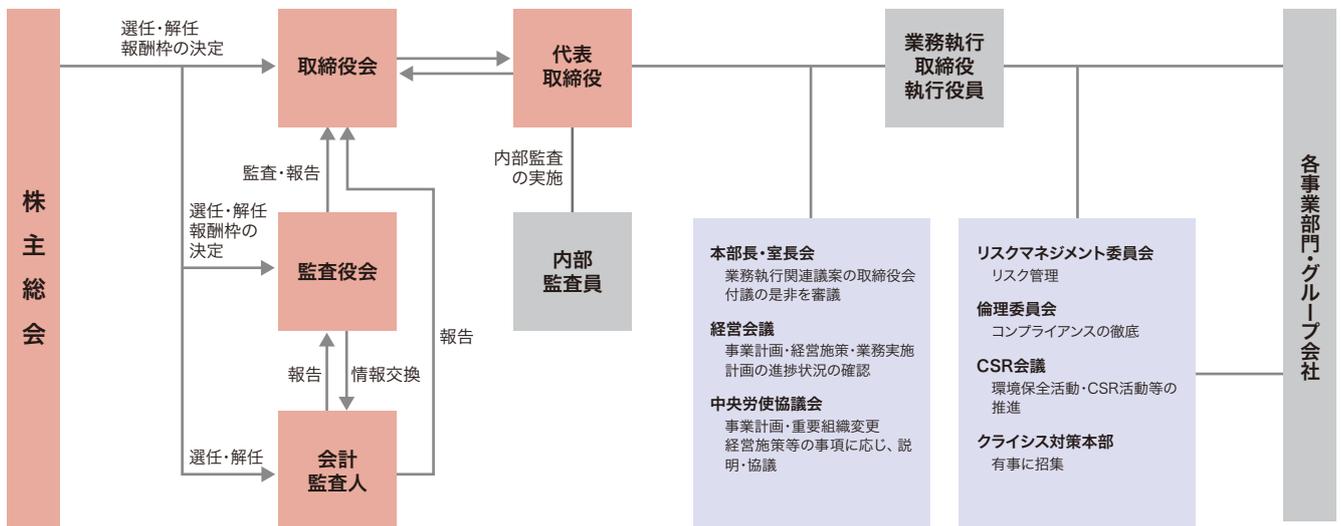
コーポレートガバナンス

イーグル工業(株)では経営の意思決定をただちに実行に移せるよう常に組織の見直しを行うとともに、大幅な権限委譲と責任の明確化を図り、最大の成果を達成しうる体制の整備に努めています。特に経営会議をはじめとする各種会議には、その重要性に応じ監査役、労働組合の参加を得ることで経営の透明性を保っています。さらに経営トップによる本部・事業部診

断は経営層レベルにおける問題点の把握と共通認識が図れる体制をとっています。

また、企業活動の多様化、グローバル化等に伴い企業としてのリスク管理の重要性が増していることから、リスクマネジメント委員会を設置し有事の備えとしています。加えて、全従業員を対象とした行動規範を策定し、モラルの向上を図っています。

●コーポレートガバナンス体制 (2014年3月末現在)



中期経営計画

持続性ある成長への基礎固め —感動的価値の創造的担い手たる社員の幸せの追求—

～永続的な企業価値の 増大を目指し、新3カ年計画をスタート～

2011年度から始まった中期経営計画(3カ年計画)の
取り組み結果について

前3カ年計画では、グローバル経営力の向上、グローバル生産体制の構築、人材の育成、品質至上主義、新商品の開発とコア技術の強化など、成長への基礎固めとなる計画の中核については着実に進捗し、一定程度の成果が得られました。

しかし、数値目標については、売上高は達成したものの、営業利益は未達に終わりました。その最も大きな要因は、外部環境の大きな変化です。東日本大震災とそれに起因するエネルギー環境の激変、中国における経済成長の減速と日本製品の不買運

動、欧州債務問題、タイの大洪水、半導体業界の不振、そして最近では改善されましたが中期経営計画の期間における円高基調など、計画のスタート後は常に大きな逆風にさらされました。

新たな中期経営計画(3カ年計画)がスタートします。

2014年度より開始する、新しい3カ年計画では「持続性ある成長への基礎固め」というスローガンを掲げ、サブテーマを「感動的価値の創造的担い手たる社員の幸せの追求」としています。社員の幸せが会社の目的だということになれば、社員の仕事への意欲もより高まり、生産性も上がり、利益も増えていきます。ひいてはステイクホルダーの利益に資することになると考えます。

また、主要推進項目としては、変化に柔軟に対応できるグローバル効率経営基盤の構築、持続的収益基盤の強化、飽くなき究

リスクマネジメント

事業活動に潜むリスクを認知し、その顕在化を防止するとともに、クライシス(緊急事態)発生時の対応を定めるため、イーグル工業(株)は2003年に「リスクマネジメント方針」および「リスクマネジメント規程」を制定しました。

各本部・事業部および各関係会社は、「リスクマネジメント方針」に基づき、企業倫理、法令順守の徹底およびリスクマネジメントの推進に努めるとともに、これらの活動を通じてより高い企業倫理の醸成を図っています。

リスクマネジメントの運用体制

リスクマネジメント委員会

事業活動に潜在するリスクを抽出・評価して、組織的認識のもと、予防策の推進を図ります。

倫理委員会

会社の事業運営に伴って発生する倫理上の問題に関して、法令、業界のルール、社会規範に照らし、誠実透明かつ適正な、倫理に即した行動を保证する体制を整えます。また、会社が市場からの信任と評価を得られるような諸施策、および従業員の労働環境を倫理という視点から改善できるような諸施策を推進します。

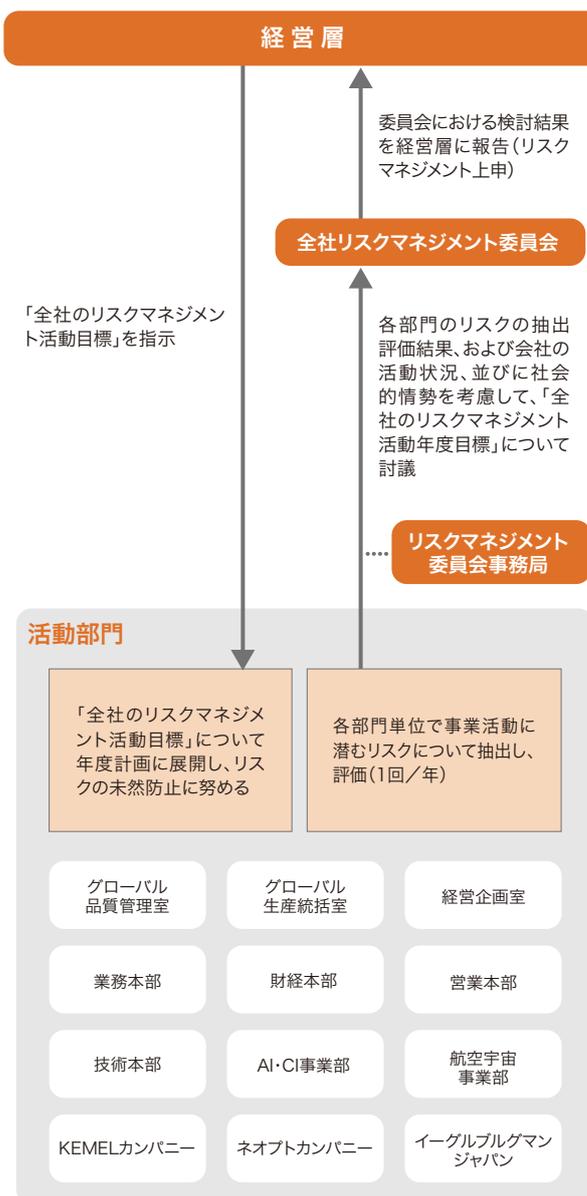
クライシス(緊急事態)対策本部

クライシスが発生した場合、総力を挙げて緊急に状況の早期把握に努めるとともに、迅速・的確な状況判断のもとに、初動体制を確立し、被害の拡大防止を図ります。

倫理相談窓口

従業員から寄せられる倫理疑義事項(法令、業界のルール、社会規範に照らした疑問事項等)に関する相談の解決と、適切な企業行動の維持を図ります。この相談窓口は、社外からの強制的な摘発、従業員等内部者による外部機関への告発、あるいは外部からの批判によってではなく、会社組織自らの力で、従業員の協力を得ながら、不公正な商慣習、違法行為、問題ある取引慣行等を事前に発見し、主体的に解決するための「自浄制度」です。

●リスクマネジメント体制



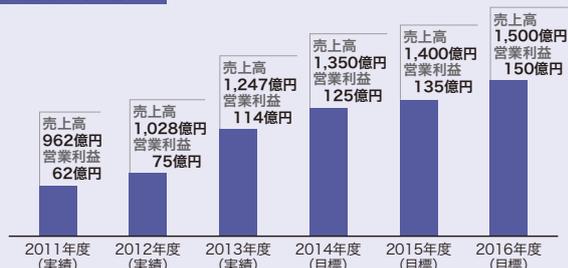
極品質の追求、固有技術力を活かせる将来性ある新製品の開発、人財の育成・発掘と合目的的教育の実践、働き甲斐のある職場作りと労働災害の撲滅を掲げ、推進していきます。そのうえで2016年度(2017年3月期)、中期経営計画の最終的な数値目標は、売上高1,500億円、営業利益150億円(営業利益率10%)といたします。

これまで推進してきた3カ年計画の成果を土台に事業の拡大と強化を進めるとともに、あらわになった課題を克服するための取り組みにも注力し、新たな3カ年計画の目標達成に向けてグループ一丸となって業務に邁進してまいります。そして、「長期的利益の犠牲のもとに短期的利益を追求しない」という当社グループの命題を肝に、永続的な企業価値の増大を目指していきます。

主要推進項目

- 変化に柔軟に対応できるグローバル効率経営基盤の構築
- 持続的収益基盤の強化
- 飽くなき究極品質の追求
- 固有技術力を活かせる将来性のある新製品の開発
- 人財の育成・発掘と合目的的教育の実践
- 働き甲斐のある職場作りと労働災害の撲滅

目標経営数値



日本と世界に広がるEKKグループ

国内事業場・営業支店およびグループ会社

①北海道イーグル株式会社



2013年度に噴火湾を一望できる高台へ新社屋を建設し、移転。これを機に従来の金属加工に加えカーボン製品の加工を開始。また、ISO9001認証も取得し、品質のさらなる向上に取り組んでいる。

■主な製品 メカニカルシール、航空宇宙関係部品の高精度切削加工

②イーグルブルグマンジャパン株式会社 新潟事業場



EKKグループの一般産業機械業界向け製品の生産拠点であるとともに、イーグルブルグマングループのアジア・パシフィック地域マザープラントとして、環境にやさしい製品と関連事業を世界へ展開している。

■主な製品 メカニカルシール、溶接ペロース、回転継手、焼結材料応用部品、他

③埼玉事業場



1965年メカニカルシール専門工場として設立。現在は航空宇宙事業部の技術・生産拠点、並びに技術本部を中心とする企画・研究・開発拠点として、次代を担う環境配慮型製品の研究・開発・製造を行う。

■主な製品 ジェットエンジン用シール、ロケット用シール等の航空宇宙機器用シール

④イーグル工業株式会社 ネオプトカンパニー

2013年10月にNOKのグループ会社であったネオプト(株)の事業を譲り受け、新たにEKKネオプトカンパニーとして発足。川崎のオフィスビル内に営業・設計・開発拠点を置き、自社開発の各種産業用カメラ製品などセンシング&イメージング製品の拡販を通じて広く社会に貢献している。

■主な製品 各種産業用カメラ製品、赤外線温度センサ、X線平面検出器や各種受発光素子、工業用インクジェットプリンティングヘッド

⑤株式会社バルコム



2014年7月1日、新工場が完成。お客さまの多様なニーズにきめ細かく応える「圧力・荷重の専門集団」として、多数の業界初製品を開発・提供し続けている。

■主な製品 圧力センサ(歪出力、アンブ内蔵、圧カススイッチ、ロードセル、デジタル表示器)

- 本社
- 営業支店
- 事業場
- グループ企業



図示以外のグループ会社として、イーグルサービス株式会社があります。

⑥イーグル工業株式会社 KEMELカンパニー



高砂事業場

呉事業場

総合船舶用シールメーカーとして日本、シンガポール、欧州、北米に拠点を置き、「船舶の安全・快適な航行」「環境保護」に貢献している。

■主な製品 船尾管シール装置、船尾管軸受、中間軸受、プロペラ修理、他

⑨島根イーグル株式会社



緑豊かな島根県雲南市にあり、水質基準を守り、宍道湖の環境保全に配慮している。リップシール等環境に良い製品を生産し、地域の環境活動にも全社員で取り組んでいる。

■主な製品 カーエアコン用リップシール、コントロールバルブ、AT用ソレノイドバルブ

⑦岡山イーグル株式会社



岡山県中西部・高梁市の美しい山々と清流に囲まれた地にあり、フローティングシール、自動車用アキュムレータ、バルブ製品等、環境に配慮した製品を生産。環境保全活動にも積極的に取り組んでいる。

■主な製品 トラックローラー用フローティングシール、自動車用アキュムレータ、油圧調整弁、吸気制御弁用アクチュエータ、他

⑩広島イーグル株式会社



2011年7月の第二工場増築以降、製品移管に伴うラインの追加等、部品供給量を拡大しており、地域の環境に配慮しながらも、EKKグループにおける自動車産業向け部品加工の中核工場としての役割をますます大きくしている。

■主な製品 自動車のウォーターポンプ用メカニカルシールおよびコントロールバルブの構成部品

⑧岡山事業場



岡山県高梁市に位置し、自動車用メカニカルシール等環境を配慮した製品を数多く製造している。地域に根ざした環境保全活動にも積極的に取り組んでいる。

■主な製品 自動車用メカニカルシール、カーエアコン用制御弁、一般産業機械向けアキュムレータ

⑪イーグルハイキャスト株式会社



2008年2月、島根県における2番目のEKK子会社として発足。大型の鋳物製品を得意とし、船舶用鋳物部品の鋳造から特殊ライニング、仕上げ加工までの一貫生産を行っている。

■主な製品 船尾管軸受・船尾管シール装置用部品。製品単重は1トン～15トン

私のCSR報告



P.T. Eagle Industry Indonesia
Maintenance Division
Rubianto Aris

We keep each chemical that is being used in the factory, to a chemical storage equipped with a pit protection to prevent harmful chemicals from flowing out into the ground. We also check the Safety Data Sheet (SDS) for those chemicals to ensure necessary action can be taken in case of an emergency. We measure the quality of drained water every month and monitor measurement result to ensure no environmental pollution is caused from the harmful chemicals.

海外グループ会社

EKKグループは「グローバル・アンド・パブリックカンパニー」をキーワードに、ドイツのメカニカルシールメーカーであるブルグマン社と技術・製造・営業、さらには資本分野を含む全面提携を行い、強固なアライアンス関係を構築しています。

欧米諸国や、新興国として成長著しい中国、インドをはじめとして世界45カ国に子会社・関連会社と合わせ100数社を有し、世界三大グローバル・メカニカルシール・プレイヤーの一角を形成しています。

生産および販売拠点(33社)

自動車・建設機械業界向け事業

- ★Eagle Industry Taiwan Corporation(台湾)
- ★NEK Co., Ltd.(韓国)
- ★EKK Eagle (Thailand) Co., Ltd.(タイ)
- ★Eagle Industry France S.A.S.(フランス)
- その他7社

一般産業機械業界向け事業

- ★EagleBurgmann Australasia Pty. Ltd.(オーストラリア)
- ★P.T. EagleBurgmann Indonesia(インドネシア)
- ★EagleBurgmann India Pvt. Ltd.(インド)
- ★EKK Eagle Semicon Components. Inc.(米国)
- EagleBurgmann Germany GmbH & Co. KG(ドイツ)
- その他16社

船用業界向け事業

- ★Eagle Materials Korea Co., Ltd.(韓国)

販売拠点(47社)

自動車・建設機械業界向け事業

- ★EKK Sales Europe B.V.(オランダ)
- その他5社

一般産業機械業界向け事業

- EagleBurgmann France S.A.S.(フランス)
- EagleBurgmann Italia s.r.l.(イタリア)
- その他34社

船用業界向け事業

- ★KEMEL Europe Limited(英国)
- ★KEMEL USA INC.(米国)
- ★KEMEL Asia Pacific Pte. Ltd.(シンガポール)

航空宇宙・光工学業界向け事業

- ★Eagle Engineering Aerospace Singapore Pte. Ltd.(シンガポール)
- その他1社

その他(13社)

自動車・建設機械業界向け事業

- ★EKK Inc.(米国)
- ★Eagle Europe GmbH(ドイツ)
- その他2社

一般産業機械業界向け事業

- ★EBI Asia Pacific Pte. Ltd.(シンガポール)
- EBI Atlantic A/S(デンマーク)
- EBI Asia Pte. Ltd.(シンガポール)
- EBI Middle East A/S(デンマーク)
- その他5社

★：連結子会社

●：持分法適用会社

Eagle Simrax B.V. (オランダ)



オランダ最南部・ケルクラーデ市に位置する、EKKの100%子会社。欧州におけるシール製品の生産および技術拠点としての役割を担っている。2012年より、既存の自動車用ウォーターポンプシールに加え、カーエアコン用リップシールの生産を開始した。両製品とも欧州では最大のシェアを占めているが、さらなるシェアアップを目指し、部品の現地調達化、内製化を含めた原価低減活動にも注力している。

EKK Eagle Industry Mexico S.A. de C.V.(メキシコ)



南北アメリカ大陸にEKK製品を供給する基地として、2012年10月に会社登記、2013年8月に工場竣工、そして2014年4月に量産を開始した。EKKグループ最新の海外生産拠点である。最初の生産品目はトランスミッション用ソレノイドバルブで、自動車関連品目を中心に拡大を計画している。2013年のメキシコ自動車生産台数は約300万台だが、2017年には400万台に達すると見られており、この増大する需要の受け皿としての役割が期待されている。

Eagle Industry (Wuxi) Co., Ltd.(中国)



2002年、無錫太湖の近くに設立され、リップシール、リードバルブの生産販売を開始。2006年に現在の工場を建設しフローティングシール、AT用ソレノイドバルブ等の生産販売を手掛けてきたが、2012年のイーグルブルグマンWuxiとの合併で、さらなる発展を目指している。ISO9001(2004年)、ISO14000(2007年)、ISO/TS16949(2009年)、と品質、環境面の認証取得を重ね、また技術専門部門も設立するなど、顧客満足度向上に積極的に取り組んでいる。

EKK Eagle Products India Pvt. Ltd.(インド)



2008年、自動車産業向けEKK製品の製造販売を目的に、インド・PUNE市に設立。2010年に輸入販売を開始し、2012年にはウォーターポンプ用メカニカルシールの製造販売も開始した。また、2012年にはISO9001、ISO 14001認証を取得。経済安定期に入ったインドにあって、同国の経済成長率を大幅に超える販売増を計画し、インドNO.1のシールサプライヤーを目指している。



イーグル工業株式会社

〒105-8587 東京都港区芝大門1-12-15 正和ビル

<http://www.ekk.co.jp/>

EKKグループ CSR報告書 2014

冊子版のご案内

本誌（WEB版）の掲載内容から「環境報告」「品質管理」「経営体制」を割愛した、ダイジェスト版の冊子も発行しています。

冊子の送付をご希望の方は、部数と送付先をご記入のうえ、下記までご請求ください。

【冊子ご請求先】

イーグル工業株式会社 業務本部 総務部 CSR課
FAX.03-3432-5448



さらに、下記について、WEBページで紹介しています。

- リスクマネジメント方針
<http://www.ekk.co.jp/csr/risk.html>
- 事業活動における倫理上の行動指針
<http://www.ekk.co.jp/csr/ethics.html>
- 安全衛生方針
<http://www.ekk.co.jp/csr/safe.html>
- 環境方針
<http://www.ekk.co.jp/csr/env.html>
- EKKグリーン調達ガイドライン
<http://www.ekk.co.jp/csr/green.html>